

鳥取大学医学部保健学科広報 アレスコ

ALESCO

No.23

February 2025

アレスコ【ALESCO】とは古代ラテン語で

「成長する、発展する」という意味です。

INDEX

- 02… 写真で綴るキャンパスライフ
- 04… 保健学科長挨拶
- 05… 卒業生だより
 - 看護師として活躍する卒業生
 - 臨床検査技師として活躍する卒業生
- 06… 看護学専攻 各講座のトピックス
- 08… 検査技術科学専攻 各講座のトピックス
- 09… 認知症予防学講座のトピックス
 - 認知症予防学講座の活動紹介
- 09… 学術・研究・地域貢献活動
 - 臨床検査技師を目指す学生による「学生フォーラム」が開催されました
- 10… ●こころの交流をはかる地域交流の取り組み
 - 地域活動「子ども食堂」参加型実習
 - 身体的フレイル予防事業：健康鳥取！スマート・ライフ・プロジェクト
- 11… 大学院生の研究紹介
- 12… 新任・退職教員からのメッセージ
- 15… 令和6年度卒業研究演題一覧
- 16… 令和7年度学級委員
- 16… 令和5年度後援会事業報告
- 16… 令和6年度後援会役員名簿
- 16… 令和6年度後援会事業計画
- 16… 編集後記



写真で綴るキャンパスライフ

～保健学科の学生たちを学年ごとに紹介します～

看護1年生



看護実践過程基盤演習



生活援助論演習



入学式

看護2年生



看護実践過程基盤実習



健康障害と看護



看護実践過程基盤実習

看護3年生



助産診断技術学演習Ⅰ 超音波検査



治療援助論演習Ⅱ 救急時の看護



治療援助論演習 術後患者の
フィジカルイグザミネーション

看護4年生



助産学実習



公衆衛生看護学実習
健康教育の教材を前に



卒業アルバム



課題研究発表会(成人・老人分野)

検査1年生



物理学実験演習（生命科学科、工学部と合同）



新入生オリエンテーション

検査2年生



病理検査学実習



病理検査学実習

検査3年生



輸血・移植検査学実習



輸血・移植検査学実習

検査4年生



国家試験対策セミナー



課題研究発表会

保健学科長挨拶

医学を通して社会貢献できる人材の育成

病態検査学講座 加藤 雅彦



鳥取大学医学部保健学科は看護学専攻と検査技術科学専攻で構成されています。看護学専攻では看護師、保健師、助産師、検査技術科学専攻では臨床検査技師の国家試験受験資格の取得が可能となります。国家資格の取得以外では、研究者となり、研究機関で医学に関する基礎あるいは臨床研究に従事し、大学生を教育する教官を目指すことも可能です。4年間の在学中に一般教養と医学（看護学・臨床検査学）の専門知識を学び、鳥取大学医学部附属病院や近隣の病院にて、実際の医療現場での経験も積みます。2024年からの医師の働き方改革により、看護師や臨床検査技師の領域では、医師が行う処置の代行や支援を行うタスクシフト・シェアの取り組みが進んできています。従来の科目以外に、より医療現場で即戦力となる知識や技術の習得も必要となってきました。医学部は他の学部比べて必須科目が多く、在学中は勉学に励まなければなりませんが、修了時には特別な達成感が感じられることと思います。また、鳥取大学では様々な課外活動も盛んです。大学時代は学業以外にも課外活動を通じた先輩・後輩や同僚との交流が、自己の成長を促します。在学中は是非さまざまな活動に参加され、自ら提案し行動を起こせるような積極性も身に付けて下さい。

私たちは若い有望な人材をあらゆる面からサポートし、将来のわが国の医療を支えて頂ける医療者・科学者の育成に誠心誠意尽力して参ります。学生たちに対する皆様のあたたかいご支援を賜りますようお願いいたします。

卒業生だより

看護師として活躍する卒業生

山増 涼香 さん 看護学専攻 第20期生

私は鳥取大学医学部附属病院のICUで勤務し、2年目になります。ICUでは様々な疾患の幅広い知識が必要になります。また、重症な患者さんも多いため様々な医療機器の使用や処置にあたり戸惑うこともあります。先輩方に教えていただき、他職種と協働して緊張感とやりがいを感じながら過ごしています。苦痛や不安が強い患者さん、家族も多くおられるため、少しでも不安や苦痛が軽減できるよう、1人1人の患者さん、家族に寄り添うことを意識しています。例えば挿管されていて話せない患者さんや意識のない患者さんに対して、筆談や指差しでコミュニケーションを図ったり、表情やモニタの数値から「しんどいのかな?」と汲み取り、考えることを大切に関わっています。これからも患者さんとの関わりを通して知識、技術を増やし患者さんに寄り添った看護師を目指して頑張りたいと思います。



卒業生だより

臨床検査技師として活躍する卒業生

黒見 晃行 さん 検査技術科学専攻 第12期生

こんにちは、黒見晃行と申します。卒後、大学院（修士）を修了し、現在、労働者健康安全機構山陰労災病院に勤めています。院内の検査部門にて、主に免疫・輸血検査、微生物検査、超音波検査を行っています。また抗菌薬適正使用支援チームに所属し、臨床検査技師としてチーム医療に参画したり、ICLS部会のメンバー、インストラクターとして救急医療にも関わっています。今後、臨床検査技師は検査部門外での活躍が一層求められると言われていますが、他職種スタッフとの関わりの中、これからの臨床検査技師の在り方に思いを馳せています。院外の活動では、2025年度の日本医学検査学会の役員を拝命しました。そのPR活動の一環で、大韓民国の学会にて演題発表をする機会を頂き、とても良い経験になったことが、最近のトピックです。今後とも研鑽に励む所存です。



看護学専攻紹介 各講座のトピックス

基礎看護学講座

◆ 1年生の技術演習の風景

1年後期では「生活援助論演習I」で日常生活援助技術について学びます。この日は、心拍数、呼吸数、血圧などのバイタルサインを測定する技術を学習しました。初めての聴診器と血圧計に最初は緊張の面持ちでしたが、学生たちは患者役・看護師役となって互いに練習を重ねていくうちに、徐々に自信に満ちた表情へと変わる様子が印象的でした。このような実践的な学びを通して、看護学生は看護職としての第一歩を踏み出す重要なスキルを身につけていきます。これから専門的な知識・技術についてたくさん学び、どんどん吸収していく学生の皆さんの成長が楽しみです。

宮本まゆみ



成人・老人看護学講座

◆ がんサバイバーへの支援を考える

学生は、4年時に「課題研究」という科目に取り組みます。課題研究とは、学生がこれまでの大学生活における学びをもとに興味あるテーマを見つめ、それが現状どのような状況なのかを明らかにし、その現象に対する課題や対策を考察する科目です。成人看護学分野の中の一つである中條ゼミでは、「乳がん罹患した子育て世代の母親が抱える心理的苦痛」というテーマで文献研究に取り組んでいます。学生らは、乳がん罹患した子育て世代の母親が、自分主体の苦痛のみならず、子どもや家族を思うがゆえの苦悩や困難を明らかにしました。そのことから、医療者に必要な心理的側面への援助を考察しています。研究の成果を今後の看護実践に生かしていけるようサポートしていきたいと思っています。

中條 雅美



母性・小児家族看護学講座

◆子どもと家族の健やかな生活を考える実習

金山 俊介

小児家族看護学実習では、保育施設や病院で実習を行います。保育施設では子どもとの関わりを通して、それぞれの成長や発達に応じた支援を学びます。はじめは、子どもとの関わりがぎこちなかった学生も、遊びを通じて次第に、その子なりの成長や関わり方に気づいていきます。病院では疾患のある子どもと家族の生活の支援を考え実践します。その中で、多様な家族のかたち、価値観に接し、それぞれの子どもと家族が健やかに生活していくための看護を考え実践します。また、子どもや家族がその人らしく生活することを支える多職種や多機関の連携や協働について学びを深めます。



地域・精神看護学講座

◆新たに始まった看護実践過程基盤実習

金田由紀子

看護のケアは個人にとどまらず、集団、地域へと拡がりを持ちます。本実習では米子市内の11の中学校区を対象にフィールドワークを展開しています。まず、学生たちはグループごとに割り振られた担当地区を統計データから分析を行い、その結果得られた仮説をもとに現地に赴き、歩いて地区を観察する地区視診を行います。さらに住民の方々、地区を担当する保健師の方にインタビューを実施し、生の声を聴くことで仮説の検証を行います。地域の健康に関する課題や強みを見出すためには、実際にその土地に出かけ、生活環境、暮らしぶりを肌で感じる事が不可欠です。実習を通じ、学生たちの担当地区への理解の深まりと共に、地区への愛着が育まれることも期待しています。



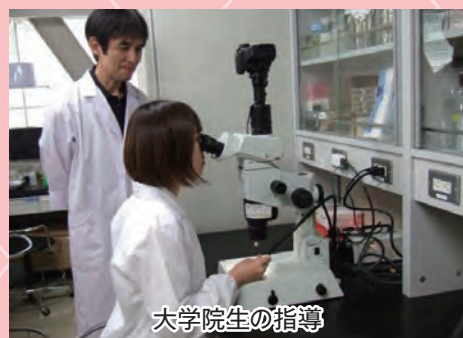
検査技術科学専攻紹介 各講座のトピックス

生体制御学講座

◆教育と研究

解剖学、生理学、生化学は、基礎医学の三本柱と言われます。1年生前期で、肉眼的な解剖学を学びます。2年生になると、解剖学の一分野である組織学を学びます。組織学では顕微鏡を使って、健常な臓器の微細構造を観察します。健常な状態を理解することで、はじめて病気（病理学）を理解することができます。観察して、「何か」を見つける能力は、研究の上でも最も基本で重要な能力です。研究には特別な能力・才能が必要だと思っている人もいますが、訓練次第です。学部の実習科目でもその訓練はできます。目先の目標である国家試験合格だけでなく、さらに先を見据えた実習を目指しています。

森 徹自



病態検査学講座

◆病理検査学実習・病理組織細胞学実習の紹介

杉原 誉明

病理検査は様々な病気やがんの診断に欠かせない検査で、その診断結果は患者さんの人生を左右する重要な役割があります。病理検査の基本技術を学ぶ実習が2年生の病理検査学実習と3年生の病理組織細胞学実習です。2年生では、検体をパラフィンで固めたブロックをミクローム装置を用いて薄切し、一般的な染色法を習得します。3年生では、特殊染色法を習得します。更に、細胞診（子宮がん検診などで用いられる）の診断トレーニングを行い、将来細胞検査士として働く為の基本技術を習得します。本年から新たに電子顕微鏡実習も開始し、幅広い領域で活躍できる人材育成を行っています。



認知症予防学講座のトピックス

◆ 認知症予防学講座の活動紹介

講座を開設して3年目を迎えております。教育においては、学部生及び大学院生向け、客員教授を務めております北翔大学等の他施設での講義を例年どおりに行っております。研究は「共生に向けた認知症早期発見・早期介入実証プロジェクト研究」、「機械学習を用いた認知症個別化検査方法の確立」等のテーマで行っています。学会活動では台日生技医薬研究会（台北市）に招かれ「日本の認知症対策と予防」、「アロマセラピーによる認知症予防」の両テーマで講演を行いました（写真1：講演終了後の記念撮影）。地域貢献活動としてYonago デジタル健康防災フェスタ、鳥取県のねんりんピック（写真2：嗅覚検査と脳年齢測定を実施）他に参加し好評を頂きました。

認知症予防学講座 浦上 克哉



写真1：講演終了後の記念撮影



写真2：嗅覚検査と脳年齢測定を実施

学術・研究・地域貢献活動

臨床検査技師を目指す学生による「学生フォーラム」が開催されました

病態検査学講座 中川真由美

11月2日（土）～3日（日）に鳥取市で開催された中四国支部医学検査学会の一企画として、3日に学生を対象とした「学生フォーラム」が行われました。本企画は、臨床検査技師の未来を学生にも共に考えてもらうことを目的としています。午前中はフォーラムAとして「臨地実習の実際とこれから ―臨床参加型実習の新時代に向けて―」というテーマで、これからの臨地実習のあり方について学生や教員らが考えを發表し意見交換を行いました。立場の異なる發表者の意見を聞き、ともに考える良い機会になりました。午後はフォーラムBとして学会形式の研究發表会が行われ、学生が日頃の研究成果を發表しました。卒後の学会本格デビューに向け發表のスキルを磨く貴重な経験になったと思います。本学からもフォーラムA、Bに4年生の長谷川さんと角木さんがそれぞれ發表してくれました。



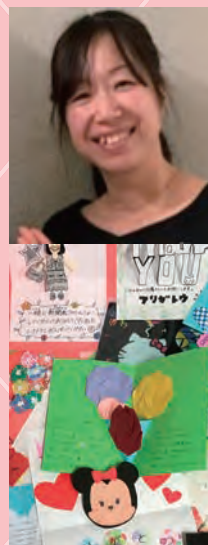
発表者に送られる感謝状を手にした長谷川さん（左）と角木さん（右）

こころの交流をはかる地域交流の取り組み

地域・精神看護学講座

高間さとみ

看護学専攻では、心身障がいがある当事者さんとの交流授業を行っています。障がいとともに生きるということについて心を寄せられるケア者になってほしいという願いがあります。一緒にアート活動を行う交流を通し、学生さんからは“一緒に笑いあえて、同じひととひとなんだなって、当たり前なことだけど、大切なことに気づけた”“もっとかかわって知り合いたいと思った”“(学生自身が)居心地が良かった”という感想が多く寄せられます。今年は、米子市内のあかり広場から9名の方をお招きしました。あかり広場は、どんな障がいがあろうとも自ら光輝く力を持っていることに気づいてほしいという願いをこめ、かけがえのないひとりの輝きが、まわりの人たちの心にぽつとあかりを灯すことを大切にされています。学生さん一人ひとりの心に灯ったあかりをこれからも大切にともに育んでいきたいと思っています。



地域活動 『子ども食堂』参加型実習

成人・老人看護学講座

野口 佳美

米子市内にある子ども食堂『ネバーランド』は、平成29年から地域の子どもの保護者のための様々な支援活動を実施されています。令和4年度より看護学専攻の成人看護学分野の統合実習では、地域参加型の実習の一環としてこの支援活動に関わらせていただいています。学生は、子どもたちの「学習支援」をはじめ、学生たちが子どもの健康をテーマに、ゲーム形式での「健康教育」など工夫を凝らし行っています。子どもたちは、学生から勉強を教えてもらったり、健康について学ぶこと、一緒に食事をする時間をとても楽しんでいます。今後も地域と連携して安心して生活できる支援活動に貢献していきたいと思っています。



身体的フレイル予防事業：健康鳥取！ スマートライフ・プロジェクト

成人・老人看護学講座 谷村千華、野口佳美

基礎看護学講座 宮本まゆみ

鳥取県の健康寿命（医療・介護の必要がなく元気で過ごせる期間）は全国平均より短く、フレイル予防が重要です。フレイルとは健康な状態と要介護の中間の状態、特に運動機能や移動機能の低下が見られる状態が「身体的フレイル」です。我々のチームは、医学部「スマートライフ・プロジェクト」の一環として、附属病院と協働し、講演会、運動機能測定会、フェスタ、健康教室などの啓発活動を通じて、住民の皆様の健康管理への意欲や健康行動を支援しています。今後も地域の方とのコミュニケーションを大切に、ぬくもりを感じあえる活動を続けてまいります。



大学院生の研究紹介

シミュレーションで創薬につながる研究を

医科学専攻博士前期課程1年
森 勇人

私たちの研究室ではタンパク質の「結合自由エネルギー」をコンピュータ上でシミュレートし計算する研究に取り組んでいます。「結合自由エネルギー」は分子間の結合の安定性を評価するための指標です。「結合自由エネルギー」計算はタンパク質を研究する上での根幹であり、創薬においてもとても重要になってきます。私は現在、barnase-barstar タンパク質複合体をモデルに、pH一定の分子シミュレーションに取り組んでいます。pH一定の条件で分子をシミュレートすることで、これまで考慮できなかった問題点を克服し、「結合自由エネルギー」をより正確に求めることを目指しています。この研究を進め、今後の創薬研究への可能性を拡げたいと思っています。



日常生活をみつめる

医科学専攻博士後期課程3年
田中美菜江

私は看護大学で勤務をしながら、「若年女性の筋骨格機能に関する実態調査」に取り組んでいます。若年層の骨格筋量の低下やロコモティブシンドロームが指摘されている中、若年女性を対象に骨密度および筋力を測定し、食事や運動との関連について調査をしています。また、勤務している大学においてもバランスのよい食事や運動習慣が大切であることを学生に呼びかけながら、私自身も日常生活を振り返り、健康的な食事と運動を心がけています。これからも現代社会における食生活の変化や身体活動・運動の不足が及ぼす影響について考え、将来の骨粗鬆症やサルコペニア予防へつながる取り組みを地道につづけていきたいと思っています。

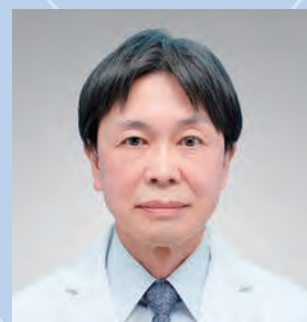


新任・退職教員からのメッセージ

退任のご挨拶

病態検査学講座 鰐岡 直人

平成 22 年に鳥取大学医学部 呼吸器・膠原病内科から保健学科 病態検査学講座に異動し、教育と研究に努めてまいりました。約 15 年間にわたり、多くの学部学生や大学院生の皆さんと共に過ごすことができました。在職中、学生さん達と一緒に研究して、ともに成長できたと感じております。保健学科在任中は、教育に関して主に微生物検査学と共通科目の生物学実験演習を担当し、研究では臨床に直結した医療機器開発にも携わり、若干の実績を残すことができました。また、保健学科長をさせていただき、大きな問題なく勤めることができたのも、保健学科のみならず、医学部の諸先生方のおかげと改めて感謝申し上げます。少子・高齢化の時代になりますが、保健学科の役割はますます重要になると思われます。今後の保健学科のさらなる発展を祈念するとともに、教職員および事務職員の皆様から賜りましたご高配に心から御礼申し上げます。



退任のご挨拶

基礎看護学講座 笠城 典子

私は 2003 年 4 月に鳥取大学医学部保健学科基礎看護学講座に着任し、あっという間に 22 年が過ぎました。学部では基礎看護学教育に従事し、実習や看護学課題研究生とのやりとりを思い出します。また、大学院前期課程の遺伝カウンセラー課程の立ち上げに関わり、講義、演習、実習、研究指導を担当しました。少しでも、卒業生のお役に立てたのなら幸いです。振り返ってみると、学生の皆さんより本当に多くのことを教えて頂きました。教職員・事務職の方々にも助けていただきました。これまで出会った学生の皆さん、教職員・事務職の皆さんにお礼申し上げます。皆様のご活躍、ご健康と保健学科の益々の発展を祈念しております。



新任教員紹介

生体制御学講座 岩田 浩明

この度、鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座に着任いたしました岩田浩明と申します。これまで京都大学にて、医療・創薬分野のデータサイエンスの教育・研究に携わってまいりました。鳥取大学においても、これまで培ってきたAIや機械学習などのデータサイエンス技術を臨床検査データに応用し、臨床検査の新たな研究分野を開拓していきたいと考えております。同時に、学生の皆さんとともに、データサイエンスの教育にも力を入れていきます。ビッグデータから新たな知見を引き出し、医療の発展に貢献したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



新任教員紹介

病態検査学講座 杉原 誉明

この度、鳥取大学医学部保健学科病態検査学講座の教授を拝命いたしました杉原誉明（たかあき）と申します。20年以上消化器内科医として診療に携わって参りました。特に消化器領域では検体検査のみならず、病理診断が欠かせません。私は、病理検査の指導を担当します。赴任してから、真っ先に取り組んだのは、「体験価値」の提供です。全員が出来るようになる事を目指し、マイクローム技術・細胞診の実技評価システムを導入しました。臨地実習では学生が臨床現場に参加できるよう、大幅にカリキュラムを見直しました。今後、働き方改革に伴う、タスクシフトの波は押し寄せてきます。多様なニーズに応えられる臨床検査技師の育成を目指します。



新任教員紹介

生体制御学講座 吉村 武

令和6年10月1日に大阪大学大学院連合小児発達学研究科より保健学科検査技術科学専攻生体制御学講座に着任いたしました吉村武と申します。名古屋大学大学院医学系研究科神経情報薬理学講座や自然科学研究機構生理学研究所での研究や教育の経験を活かして、本学では生理学と薬理学に関わる講義や実習を担当いたします。分子細胞生物学的手法を用いてタンパク質の翻訳後修飾の生理的意義の解明などに従事してきました。大阪大学大学院連合小児発達学研究科では臨床の先生方と共同研究を行い、神経発達症（発達障がい）の分子メカニズムの解明に取り組んできました。鳥取大学において、見えないものを“はかる”ことを通じて基礎研究の面白さを伝えられるような教育や研究に従事し、優秀な臨床検査技師を育てるべく貢献してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



新任教員紹介

基礎看護学講座 青砥ダイアン

My name is Diane Aoto, and I joined the Faculty of Medicine as a lecturer in English in April, after 9 years here in a part-time position. Although I am affiliated with the Department of Fundamental Nursing, I teach English to students in all departments of the faculty. I am originally from the UK, but I have been living and teaching English in Yonago for over 25 years. I believe that English can be a truly useful tool in both professional and personal settings, and that expressing yourself in English can also help you improve your communication skills in Japanese. I am happy to help with any English-language needs you have, so please don't hesitate to reach out to me, or just say "Hi!" when you see me!



新任教員紹介

基礎看護学講座 南前 直都

2024年9月より医学部保健学科基礎看護学講座に着任しました南前直都と申します。私はこれまで鳥取大学医学部附属病院の7A病棟で、5年半看護師として勤務してきました。看護師として、対象者の方々との関わりから、徳の倫理の考えを大切にするようになり、このことは教育の現場でも大切ではないかと思っています。教育の現場は初めてですが、臨床での自らの学びを活かし、学生の皆さんと共に看護の学びを深めていきたいと考えています。

また、研究では、医療専門職のプロフェッショナリズムについての研究を行っております。看護師に限らず、医療の質を高められるような研究をしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



令和6年度 卒業研究演題一覧

基礎看護学講座

1. 看護師独自の過剰適応傾向尺度は必要か
2. 看護学生と新人看護師における援助要請行動促進要因の検討
3. 実習における学生の学習意欲に影響する教員の関わり
4. 在日外国人の日本での医療体験に関する実態と課題
5. 非侵襲性出生前遺伝学的検査（NIPT）の意思決定過程から結果開示までの夫婦それぞれの思いについての文献検討
6. 外来化学療法を受けるがん患者の就労継続の要因に関する文献研究

成人・老人看護学講座

1. 慢性疾患をもつ人への退院支援に関わる看護師の困難感に関する文献検討
2. 救急医療現場における看護師が抱えるストレスとその要因についての文献検討
3. 認知症を有する高齢糖尿病患者への看護実践 ～文献レビュー～
4. クリティカル領域における患者の死を体験する家族への看護一和文献を対象とした文献検討一
5. 予期せぬ死に直面した家族の悲嘆
6. ALS 患者とその家族の意思決定に対する思いに関する文献検討
7. 乳がん罹患した子育て世代の母親が抱える心理的苦痛
8. 日本における高齢者を対象としたドライビングシミュレータに関するスコーピングレビュー

母性・小児家族看護学講座

1. インスリンポンプを使用している学童期から思春期・青年期の 1 型糖尿病を持つ患者の困難に関する文献研究
2. 産後 1 ヶ月の母親の育児不安に影響を与える要因についての文献検討
3. 重症心身障害児を持つ父親の困難感に対する文献検討
4. 出生前診断の受検における妊婦の主体的な意思決定につながる要素（文献検討）
5. 性的自己決定の影響要因に関する文献検討
6. 慢性疾患をもつ小学生の学校生活における自己管理上の課題
7. 無痛分娩を視野に入れた女性の分娩方法の選択に影響する要因の文献検討
8. 思春期 1 型糖尿病患児のスティグマおよびセルフスティグマに関する文献検討

地域・精神看護学講座

1. 終末期高齢者の家族が抱える介護負担に対する訪問看護師の介入についての文献検討
2. 終末期における訪問看護師の援助についての文献検討
3. 看護師による統合失調症患者への服薬継続支援に関する文献検討
4. 地域で暮らす認知症高齢者本人とその家族や支援者が抱く困難感に関する文献検討
5. 住民主体の介護予防活動における保健師の役割に関する文献検討

生体制御学講座

1. Barnase-barstar 複合体を対象とした computational alanine scanning の検証
2. 末梢血塗抹標本分類 AI モデルにおける分類根拠の可視化解析
3. 成体マウス脳における細胞更新現象の検出
4. 地域在住中高年者に対して認知機能や身体機能の簡易評価を行う有用性

病態検査学講座

1. 高吸収ポリマーによる新規体腔液細胞診技術の開発
2. 睡眠とまくら ～健常者における上半身挙上の影響～
3. 培養肝細胞の HDL 形成に与えるオキシステロールの影響
4. PCR 法を用いた食肉の動物種判別
5. 大腸菌における β ラクタム系抗菌薬に対する薬剤耐性機序の解明

認知症予防学講座

1. 簡易に実施できる検査・アンケートを用いた機械学習による認知症早期発見の検討

令和7年度学級委員

看護学専攻 学級委員

入学年度	学 年	氏 名	所属講座
令和7年度	1 年生	宮本まゆみ 教 授 / 山本 陽子 助 教	基礎看護学
令和6年度	2 年生	高間さとみ 講 師 / 安部 由紀 助 教	地域・精神看護学
令和5年度	3 年生	山崎 歩 教 授 / 金山 俊介 講 師	母性・小児家族看護学
令和4年度	4 年生	中條 雅美 教 授 / 長谷川慶幸 助 教	成人・老人看護学

検査技術科学専攻 学級委員

入学年度	学 年	氏 名	所属講座
令和7年度	1 年生	岩田 浩明 教 授 / 河月 稔 講 師	生体制御学
令和6年度	2 年生	中川真由美 准教授 / 高田美也子 助 教	病態検査学
令和5年度	3 年生	森 徹自 教 授 / 高村 歩美 講 師	生体制御学
令和4年度	4 年生	臼井 真一 教 授 / 松下 倫子 助 教	病態検査学

※両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級委員として学生の指導・相談の任にあたっています。

令和5年度医学部保健学科後援会事業報告

1. 教育助成

■入学式関連

- ・入学式
- ・新入生オリエンテーション
- ・大学入門ゼミ（開催せず、支出なし）

■大学説明会関連

- ・オープンキャンパス

■教育関連

- ・新入生ふれあい朝食会（開催せず、支出なし）
- ・2年次学生と教員との懇談会
- ・優秀学生表彰
- ・看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成

2. 国家試験対策

- ・看護師等国家試験対策模試
- ・臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- ・教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- ・国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- ・錦祭（実施予定、予算計上）

6. 広報経費

- ・保健学科広報「アレスコ No.22」発行
- ・ホームページ充実費（検査技術科学専攻改修予定）

7. 後援会運営

- ・後援会役員会関連経費

令和6年度医学部保健学科後援会事業計画

1. 教育助成

■入学式関連

- ・入学式
- ・新入生オリエンテーション
- ・大学入門ゼミ（開催せず、支出なし）

■大学説明会関連

- ・オープンキャンパス

■教育関連

- ・新入生ふれあい朝食会（開催せず、支出なし）
- ・2年次学生と教員との懇談会
- ・優秀学生表彰
- ・看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成

2. 国家試験対策

- ・看護師等国家試験対策模試
- ・臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- ・教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- ・国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- ・錦祭（実施予定、予算計上）

6. 広報経費

- ・保健学科広報「アレスコ No.23」発行
- ・ホームページ充実費（検査技術科学専攻改修予定）

7. 後援会運営

- ・後援会役員会関連経費

令和6年度 鳥取大学医学部後援会役員

役職名	氏 名	役職指定	学生年次
会 長	長尾 勝人		医学6年
副会長	景山 誠二	医学部長	
副会長	島村 文枝		生命4年
副会長	野口佐智子		看護4年
理 事	谷口 文紀		医学1年
理 事	十河 卓史		医学4年
理 事	谷口 晋一	医学科長	
理 事	松岡 浩一		生命3年
理 事	久郷 裕之	生命科学科長	
理 事	平川美絵子		看護4年
理 事	若槻 澄子		検査3年
理 事	加藤 雅彦	保健学科長	
監 事	小椋 崇喜		医学4年
監 事	加藤 裕子		生命4年
監 事	前田 陽子		看護3年
会 計	重松 良昭	学務課長	

編集後記

鳥取大学医学部保健学科広報誌アレスコ（ALESCO）第23号を発刊いたしました。

今号の発刊に当たり、先生方をはじめ在学生、卒業生から原稿を多数お寄せいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。アレスコが引き続き、保健学科の現在を情報発信する一翼を担うことができると考えております。

ささやかではありますが、保護者および関係各位の皆様には、アレスコの1つ1つの記事を通じて、保健学科の「成長・発展（アレスコ）」の姿、ご子息、ご息女の学生生活の一端を感じ取っていただければ幸いです。

（保健学科広報委員 藤原 伸一）

【発行責任者】鳥取大学医学部後援会・鳥取大学医学部保健学科広報委員会

【発 行 所】鳥取大学医学部保健学科（〒683-8503 鳥取県米子市西町 86 番地）

【発 行 年 月】令和7年2月